読める英文法・聞ける英音法

Boost Your Reading and Listening Skills

中郷　慶
柳　朋宏
中川　直志
二村　慎一
樗木　勇作
Beverley Curran

英　宝　社

はじめに

英語を学んでいる人からよく聞かれるのは，「リーディングの力がなかなか伸びない」「リスニングの力がなかなか上がらない」という声です．また，英語によるコミュニケーション能力を幅広く測定する世界共通のテスト TOEIC (Test of English for International Communication) のスコアが，目標スコアに到達しないという切実な叫びもよく耳にします．本書は，このように英語力がなかなか伸びないと悩んでいる方を対象に，どのようにすれば英語が読めるのか，あるいは，聞けるようになるのかを段階を追って学べるように書かれました．

ある程度の長さの英文の内容を正しく読み取るためには，どのようにすればよいのでしょうか．ただやみくもに大量の英文を読めばよいというものではありません．まずは文の構造を正しく把握してその内容を理解し，次に，文と文の関係，段落と段落の関係に注意を向ける訓練が必要です．読解力養成の出発点は，1つ1つの文の意味を正確に理解することにあると言えます．

英語が正しく読めない理由には，少なくとも2つのことが考えられます．1つは，基本的な英文法の知識が十分でないということ，もう1つは長い文を読む訓練ができていないということです．英文法を一通り学んだことはあっても，文が少しでも長くなると，その途端に文意の把握が難しくなるということは珍しくありません．

本書 Unit 1～13 の *Boost your reading skills* では，英文を読めるようになることに主眼を置いています．英語学習者がつまずきやすい文法事項と文型を厳選し，文の基本構造から始まり，文が長くなるさまざまな場合を取り上げ，スラッシュリーディング，空所補充，単語の並べ替えによる英作文などの練習問題を通して，文法力と読解力が総合的に身に付くようになっています．

英語のリスニング力を付けるためにも，ただ大量の英文を聞き流していればよいというものではありません．「なぜ聞き取れないか」には，明確な理由があります．英語の音声にはさまざまな「決まりごと」があります．この「決まりごと」を英音法と呼ぶことにすると，英音法の理解なしには，リスニング力は身に付きません．

本書 Unit 1～8 の *Boost your listening skills* では，英語のリズムやイントネーションの特徴に始まり，日本人英語学習者にとって発音や聞き取りが難しい母音・子音，連結や同化，脱落など英音法の諸側面を学びます．さらに，Unit 9～13 の *Boost your listening skills* では，文法セクション (*Boost your reading skills*) との連

携を図り，ある程度の長さを持った文のリスニング力向上を目指します．

本書の巻末には，リーディングとリスニングの実践演習のための付録を収録しました．Unit 1～13 で身に付けた英文法と英音法の知識を十分に活かし，自分の英語力がどのくらい向上しているか確認してください．

英語のリーディング力とリスニング力を付けるためには，どのような内容にすればよいのか，執筆者が何度もミーティングを行って検討を重ねました．本書がみなさんの読解力と聴解力向上のお役にたてれば幸いです．

本書の出版に際し，適切なご助言をくださいました英宝社編集部の宇治正夫氏には，ここに改めて感謝の意を表します．

2007 年 8 月

著者一同

目　次

はじめに iii

Unit 1

Boost your reading skills 1
まず理解しておきたいこと──文の基本要素と品詞── 5

Boost your listening skills 1
英語のリズムに慣れよう 10

Unit 2

Boost your reading skills 2
文の基本要素の組み合わせ──5 文型── 15

Boost your listening skills 2
英語のリズムと強形・弱形，強勢の衝突と移動 20

Unit 3

Boost your reading skills 3
過去，現在，そして未来へ──時　制── 25

Boost your listening skills 3
英語のイントネーションに慣れよう 34

Unit 4

Boost your reading skills 4
完了・結果・経験・継続を表す──完了形── 39

Boost your listening skills 4
聞き分けの難しい音 ①　子音 44

Unit 5

Boost your reading skills 5
動詞の意味を補助する表現が加わり述語が長くなる──法助動詞── .. 53

Boost your listening skills 5
聞き分けの難しい音 ②　母音 60

Unit 6

Boost your reading skills 6
句や文を長くする ①──To 不定詞を使って長くする── 65

Boost your listening skills 6
連　結 72

Unit 7

Boost your reading skills 7

句や文を長くする②──現在分詞や過去分詞を使って長くする── 77

Boost your listening skills 7

同化と脱落 82

Unit 8

Boost your reading skills 8

句や文を長くする③──関係節を使って長くする── 87

Boost your listening skills 8

地名や数字，各種アナウンスを聞き取ろう 93

Unit 9

Boost your reading skills 9

文の基本要素が長くなる①──That 節・Whether 節・Wh 節── 97

Boost your listening skills 9

That 節・Wh 節を取る動詞・形容詞に注意しよう 101

Unit 10

Boost your reading skills 10

文の基本要素が長くなる②──To 不定詞の名詞用法── 105

Boost your listening skills 10

To 不定詞を取る動詞・形容詞に注意しよう 107

Unit 11

Boost your reading skills 11

文の基本要素が長くなる③──動名詞── 111

Boost your listening skills 11

動名詞とその前後の単語との関係に注意しよう 115

Unit 12

Boost your reading skills 12

情報を補足する節が組み込まれて文が長くなる──従属接続詞── 119

Boost your listening skills 12

副詞節を導く接続詞と主節との関係に注意しよう 125

Unit 13

Boost your reading skills 13

仮定や想像上の話をする──仮定法── 129

Boost your listening skills 13

動詞・助動詞の時制を聞き逃さない 133

付　録

リーディングとリスニングの実践演習 137

読める英文法・聞ける英音法

Boost Your Reading and Listening Skills

Unit 1

Boost your reading skills 1

まず理解しておきたいこと──文の基本要素と品詞──

Boost your listening skills 1

英語のリズムに慣れよう

まず理解しておきたいこと
——文の基本要素と品詞——

英文を正確に解釈するためには，さまざまな文法事項を理解する必要がありますが，その前に，Unit 1 では，まずおさえておきたい基本事項を見ることにしましょう．

1. 文の基本要素

英語の文は，主語・動詞・目的語・補語という 4 つの基本的な要素の組み合わせによってなんらかの意味を伝えます．これらの要素が文の中でどのような役割を果たしているのかを次の表で確認しましょう．

基本要素	マーク	役　割
主語 S(ubject)	●	動詞が表す動作や状態の主体となるもので，「～が…する」や「～は…である」の「～が，～は」にあたる語
動詞 V(erb)	▲	動作や状態を表し，「～が…する」や「～は…である」の「…する，…である」にあたる語
目的語 O(bject)	■	動詞が表す動作などの対象となるもので，「～を…する」の「～を」にあたる語
補語 C(omplement)	◆	主語や目的語が「どのようなものか」や「どのような状態にあるのか」を補足説明する語

表 1　文の基本要素

では，具体的な文を見てみましょう．このテキストでは，基本要素を「I」という記号で区切ったうえで，表 1 に示した ● ▲ ■ ◆ のマークを使い図示していきます．

(1)　a.　I John I loves I Mary I .
　　● ▲ ■

　　b.　I We I are I students I .
　　● ▲ ◆

(1a) の文では，「～が，～は」にあたる主語 John は，「～する」にあたる動詞 loves の左側に現れ，「～を」にあたる目的語の Mary は動詞の右側に現れています．同様に，(1b) の文でも，主語 we は，「～である」にあたる動詞 are の左側に現れ，主語が「どのようなものか」を説明する補語の students は動詞の右側に現れています．このように，英語の文は「動詞の左側が主語，右側が目的語や補語」というように，基本的な語順が決まっています．

2. 語・句・節

しかしながら，(1) の文のように，主語・動詞・目的語・補語が，それぞれ 1 語で表される文は少なく，実際の文では，2 語以上で表される場合がほとんどです．次の文を見てみましょう．

(2) a. | A good-looking woman in a red dress | stood | <u>there</u> | .
●　　▲

b. | We | thought | that this book was difficult for children | .
●　▲　■

(1a) では John という名詞 1 語が主語となっていましたが，(2a) では a good-looking woman in a red dress（赤いドレスを着た綺麗な女性）という語の集まりが主語の役割を果たしています．このようにいくつかの語が集まり，1 つの語と同じ役割（この場合，名詞として主語の役割）を果たすものを**句**と呼びます．

・a good-looking woman in a red dress のようにいくつかの語がひとまとまりとなって句を構成する場合，句の中心となる語（**主要部**と呼ぶ：この場合は woman）のすぐ下に●などのマークを，適宜付けることにします．
・<u>there</u> は，動詞 stood を修飾しており，「そこで（立っていた）」という意味を追加しています．このような文の基本要素（主語・動詞・目的語・補語）以外の要素は，<u>下線</u>で示すこととします．

また，(1a) では Mary という名詞 1 語が動詞 loves の目的語となっていましたが，(2b) の文では that this book was difficult for children という語の集合全体が動詞 thought の目的語の役割を果たしています．このように，いくつかの語の集まりが 1 つの語と同じ役割（この場合，名詞として目的語の役割）を果たし，かつ，その集まりの中に「主語・述語」の関係を含んだものを**節**と呼びます．節が文の基本要素になる例については，Unit 9 で取り上げます．

練習 1　次の (1)〜(4) の文を，文の基本要素とそれ以外の要素に分け，それぞれの働きに応じて ● ▲ ■ ◆ などのマークや下線を付けなさい．

（例）| I | studied | English | <u>last night</u> | .
●　▲　■

(1) The number of non-smoking tables in this restaurant rapidly increased.

(2) We bought a small cottage by the lake last summer.

(3) This route along the cliffs is the shortest way to the top of the mountain.

(4) Their kind acceptance of the invitation to our son's wedding pleased us very much.

3. 品詞とその機能

英語の文を正しく理解するためには，文中の語・句・節が，それぞれ，文のどの基本要素の働きをしているかを正確に見分ける必要があります．その際，重要になるのが**品詞**という概念です．単語は，その形や意味，働きによって名詞・動詞・形容詞・副詞・前置詞などの品詞に分けられます．それぞれの品詞はそれぞれ異なった機能を持っていて，その機能によって，どの語とどの語が結びつくのか，または結びつかないのかが決まってくるのです．品詞を意識するようになると，どの語の集まりが文のどの基本要素として機能しているかを理解しやすくなります．

3.1. 品詞の種類とその機能

表 2 で，品詞とその機能を確認しましょう．

品　詞	機　能	例
名　詞	人や事物の名前や概念を表す．主語，目的語，補語になる．	student, car, happiness
動　詞	動作や状態を表し，時制や主語の人称などによって語形を変える．	play, arrive, enjoy
形容詞	人や事物の性質などを表す．補語や，名詞の修飾語になる．	good, sleepy, slow
副　詞	時や場所などを表し，動詞，形容詞，他の副詞や文全体を修飾する．	yesterday, here, very
代名詞	名詞の代わりに用いられる．	we, him, your, that
冠　詞	名詞の前に置かれ，その名詞が特定できるかどうかを示す．	the, a(n)
助動詞	動詞の前に置かれ，その動詞と結びついて可能・義務などの意味を表す．	can, must, should
前置詞	名詞の前に置かれ，後ろの名詞とともに形容詞句や副詞句の役割を果たす．	in, from, after, before
接続詞	語と語，句と句，節と節を結びつける．	and, since, because
間投詞	話し手の感情を表したり，呼びかけに使われたりする．	hi, oh, ah, well

表 2　10 品詞の機能

3.2. 品詞の見分け方

ある単語がどのような品詞として使われるのかは基本的に覚える必要がありますが，ある単語が必ずしも 1 つの品詞として機能するわけではないということにも注意しましょう．例えば，place という語は，(3a) のように名詞としても，(3b) のように動詞としても使われます．

(3) a. That café is a good place for lunch.
　　b. We placed the sofa in the middle of the room.

また，単語に**接辞**と呼ばれる要素を付け加えることによって，別の品詞にすることもできます．単語の品詞と意味を**表 3** で考えましょう．

語	品　詞	意　味
center	名詞	中央
central	形容詞	中央の
centralize	動詞	中央に集める

表 3　品詞の変化と意味

center という名詞に -al という接辞を付け加えることにより，central という形容詞が生まれます．さらに，-ize を付け加えることにより centralize という動詞になります．もちろん，品詞は変わってもそれぞれの単語の意味は，中心となる語の center の意味が基になっています．したがって，単語の中の接辞を見ればその単語の品詞を見分けることができ，接辞以外の部分を見れば，その単語の意味も推測することができるのです．主な英語の接辞を品詞別に**表 4** にまとめておきます．

名詞を作る接辞					
-(a)(t)ion	organization	-ment	establishment	-al	arrival
-ance	allowance	-ity	activity	-ness	goodness
動詞を作る接辞					
-ize	specialize	-en	blacken	-ify	clarify
de-	deforest	en-	encase	un-	unmask
形容詞を作る接辞					
-al	natural	-ive	negative	-ful	beautiful
-ous	dangerous	-ic	academic	-able	understandable

表 4　品詞を変える主な接辞

また，接辞の中には，品詞を変えずに，ある決まった意味を追加するだけのものもあります．代表的なものを**表 5** で確認しましょう．

接辞	用　法	例
in- im- ir- il-	形容詞に付き，「～でない」という意味を追加する．	definite（はっきりとした） indefinite（はっきりとしない） possible（可能な） impossible（不可能な）
un-	形容詞に付き，「～でない」という意味を追加する．	fair（公平な） unfair（不公平な）
un-	動詞に付き，反対の動作を表す．	tie（くくりつける） untie（ほどく）
re-	動詞やその派生語に付き，「再び」や「新たに」などの意味を追加する．	write（書く） rewrite（書き直す）

over-	動詞や形容詞に付き，「過度に」や「超えて」などの意味を追加する．	work（働く） overwork（働きすぎる）
under-	名詞，動詞や形容詞に付き，「不十分に」や「下の」などの意味を追加する．	estimate（評価する） underestimate（過小評価する）

表5　意味を変える主な接辞

練習 2　次の単語の品詞と意味を辞書で調べなさい．

語	品　詞	意　味
fascinate		
fascination		
credible		
incredible		
load		
unload		
influence		
influential		

練習 3　次の (1)～(4) の下線部の単語の品詞と意味を書きなさい．

(1) We <u>booked</u> a table at one of the excellent Chinese restaurants in London.
　　品詞 [　　]　意味 [　　]

(2) My parents often bought picture <u>books</u> for me.
　　品詞 [　　]　意味 [　　]

(3) They talked about <u>current</u> issues in education last night.
　　品詞 [　　]　意味 [　　]

(4) A warm <u>current</u> flows north along the east coast of Florida.
　　品詞 [　　]　意味 [　　]

練習 4　次の (1)～(4) の文の (　　) に入れるのに最も適切なものを，それぞれの A～D のうちから 1 つずつ選びなさい．

(1) Our life was full of (　　) when we had our first daughter, Jane.
　　A. happy　　B. happier
　　C. happily　　D. happiness

(2) His suggestion was an (　　) idea from a financial point of view.
　　A. attraction　　B. attractive
　　C. attract　　D. attractively

(3) You can (　　) money and keys in these new jeans pocket.

A. river　　B. rule

C. store　　D. part

(4) The large drawing room with many windows (　　) my favorite place in my house.

A. of　　B. is

C. at　　D. are

Boost your listening skills 1

英語のリズムに慣れよう

英語が聞けるようになるためには，英語の発音の特徴と英語の正しい発音を知ることがとても大切です．特に，リズムとイントネーションの基礎を押さえておくことは重要です．ここでは，まず，英語のリズムの特徴について考えましょう．

リズムとは，時間軸に沿って繰り返される規則的な形式のことです．Boost your reading skills 1 では，品詞について学びました．名詞，動詞，形容詞，副詞は**内容語**と呼ばれ，強く長く発音されます．それに対して，**機能語**と呼ばれる前置詞，助動詞，代名詞，冠詞，関係詞，接続詞，be 動詞などは弱く短く発音されます．英語のリズムの特徴は，強く発音される語と弱く発音される語が規則的に繰り返される**強勢拍リズム**であるということです．それに対して，日本語は単語のそれぞれの音節（またはモーラ）がほぼ同じ強さと高さで発音される音節拍（モーラ拍）リズムの言語です．

次の a と b の例で，英語と日本語のリズムの違いを確認しましょう．

英語と日本語のリズムの違い CD 1

英語：強勢拍リズム

a.　I will go to London to study English.

　　∘ ∘ ○ ∘ ○ ∘　∘ ○∘ ◎ ∘

日本語：音節拍（モーラ拍）リズム

b.　えいごをまなびにロンドンにいきます．（英語を学びにロンドンに行きます．）

　　○○○○○○○○○○○○○○○○○○

動詞 go は内容語ですから強く長く発音されるため大きな○で，人称代名詞 I や助動詞 will は機能語ですから弱く短く発音されるため小さな∘で表されています．Lón•don や stúd•y は 2 音節の単語で，いずれも強勢（アクセント）が最初の音節にあるため○∘と表されます．（記号「•」は音節の切れ目を表します．English が◎で表される理由については，Unit 2 で扱います．）

日本語を本来の音節拍（モーラ拍）リズムではなく，強勢拍リズムで読むと，相当不自然なことに気づきます．英語をモーラ拍リズムで読むことは，それと同じように不自然です．英語を読むときに，モーラ拍リズムにならないように，くれぐれも注意しましょう．

このように読まないように注意！

I will go to London to study English
○○ ○○ ○○○○○ ○ ○
cf. えいごをまなびにロンドンにいきます．
○。。。。○。。○。。。。。。○。

練習 1 次の (1)〜(4) の文で強く発音される語の下に○を，弱く発音される語の下には。を書き，リズムに気をつけて読みなさい．CD **2**

(1) I met a man who came from London.

(2) John takes the train to go to the office.

(3) What did you eat this morning?

(4) This is the dog that worried the cat that killed the rat that ate the malt that lay in the house that Jack built.

練習 2 次の 5 つの文を，リズムを保って読みなさい．CD **3**

Cats chase mice away.
The cats chase mice away.
The cats will chase mice away.
The cats will chase the mice away.
The cats will have chased the mice away.

マザー・グース（《米》Mother Goose rhyme, 《英》nursery rhyme）は，英語圏の子どもたちのための歌で，英語の強勢拍リズムの練習をするためには格好の教材となります．

練習 3 次の (1)〜(3) のマザー・グースの歌詞を読みなさい．CD **4**

(1) Humpty Dumpty sat on a wall,
Humpty Dumpty had a great fall;
All the king's horses and all the king's men,
Couldn't put Humpty together again.

(2) Oh, the grand old Duke of York
He had ten thousand men;
He marched them up to the top of the hill,
And he marched them down again.
And when they were up they were up,
And when they were down they were down,
And when they were only half-way up,
They were neither up nor down.

(3) Solomon Grundy,
Born on Monday,
Christened on Tuesday,
Married on Wednesday,
Took ill on Thursday,
Worse on Friday,
Died on Saturday,
Buried on Sunday:
This is the end
Of Solomon Grundy.

Unit 2

Boost your reading skills 2

文の基本要素の組み合わせ──5 文型──

Boost your listening skills 2

英語のリズムと強形・弱形，強勢の衝突と移動

文の基本要素の組み合わせ
——5 文型——

Unit 1 では，英語の文は主語・動詞・目的語・補語という要素に分類されることを見ました．Unit 2 では，実際にそれら 4 つの文の基本要素がどのように組み合わされて文が作られるのかを見ていきます．

1. 文型とは

文の基本要素の組み合わせは動詞の意味や性質によって決定されます．文の基本要素の組み合わせは，動詞がどのような要素を必要とするのかという観点から，通常，5 つのタイプに分類されます．このように英文を 5 つのタイプに分けたものを 5 文型と呼びます．

第 1 文型 主語 (S)＋動詞 (V)

第 1 文型とは，主語と動詞だけで文が成り立つ文型です．例文を見てみましょう．

(1) a. | We | **swam** | .
　　●　▲

b. | John | **moved** | to Tokyo last year | .
　　●　▲

(1a) の「泳ぐ」という行為が成立するためには，その行為を行う人が必要です．つまり，「泳ぐ」という動詞の主語「誰が」が必要となります．このように，主語のみを必要とする動詞を自動詞と呼びます．実際の文では，(1b) のように修飾語句を伴うのが一般的です．

第 1 文型で用いられる主な動詞：come, open, run, sleep, work など

第 2 文型 主語 (S)＋動詞 (V)＋補語 (C)

第 2 文型とは，主語・動詞・補語が必要な文型です．例文を見てみましょう．

(2) a. | Mary | **is** | a high school student | .
　　●　▲　　◆

b. | John | **looks** | sad | .
　　●　▲　◆

(2a) のように「～である」や (2b) のように「～のように見える」という状態を表現するためには，何がどのようにその状態にあるのかを明示する必要があります．つまり，「何が」にあたる主語とその状態が「どのようなのか」を説明する補語が必要です．補語は (2a) のように名詞のときも，(2b) のように形容詞のときもあります．このように，主語と補語を必要とする動詞も自動詞と呼び，その典型的な動詞が am, is, are などの be 動詞です．

第 2 文型で用いられる主な動詞：appear, seem, sound, taste, become など

第 3 文型 主語 (S)＋動詞 (V)＋目的語 (O)

第 3 文型とは，主語・動詞・目的語から成る文型です．例文を見てみましょう．

(3) a. | Our company | **built** | the bridge | .
　　● ▲ ■

　　b. | My father | **reads** | three newspapers | <u>every day</u> | .
　　● ▲ ■

(3a) の「建設する」という行為が成立するには，その行為を行う人とその行為の対象となるものが必要です．つまり，「建設する」という動詞の主語「誰が」とその目的語「何を」が必要です．このように，主語と目的語を必要とする動詞を**他動詞**と呼びます．

第 3 文型で用いられる主な動詞：have, like, destroy, believe, enjoy など

練習 1 次の (1)～(3) の文の (　　) に入れるのに最も適切なものを，それぞれの A～D のうちから 1 つずつ選びなさい．

(1) My colleague (　　) his important documents on my desk.
　A. looked　　B. was
　C. left　　D. came

(2) Mr. Johnson (　　) satisfied with our explanations to his questions.
　A. thought　　B. appeared
　C. found　　D. tried

(3) Many leading scientists from all over the world (　　) in Tokyo for an international conference last year.
　A. gathered　　B. came
　C. was　　D. attended

第 4 文型 主語 (S)＋動詞 (V)＋間接目的語 (O)＋直接目的語 (O)

第 4 文型とは，主語・動詞・間接目的語・直接目的語から成る文型です．例文を見てみましょう．

(4) a. | John | **sent** | Mary | a letter | .

b. | My parents | **bought** | me | a new bicycle | .

(4a) の「送る」という行為が成立するには，送る人と送られるものだけでなく，送られたものを受け取る人も必要です．つまり，「送る」という動詞，「誰が」にあたる主語，「何を」にあたる目的語，そして「誰に」にあたる目的語が必要になります．これら 2 種類の目的語は，「誰に」にあたる間接目的語，「何を」にあたる直接目的語という語順で，動詞に後続することに注意してください．

第 4 文型で用いられる主な動詞：sell, teach, show, offer など

なお，(4) と同じ内容を，目的語を 2 つ取る第 4 文型ではなく，(5) のように目的語を 1 つしか取らない第 3 文型で表すことも可能です．

(5) a. | John | **sent** | a letter | <u>to Mary</u> | .

b. | My parents | **bought** | a new bicycle | <u>for me</u> | .

この場合，「誰に」にあたる要素は，前置詞 to や for を使った副詞的な修飾語句として表されます．

第 5 文型 主語 (S)＋動詞 (V)＋目的語 (O)＋補語 (C)

第 5 文型とは，主語･動詞･目的語･補語から成る文型です．例文を見てみましょう．

(6) a. | They | **named** | their daughter | Jane | .

b. | We | **kept** | our room | clean | .

(6a) のような「名付ける」や (6b) のような「～の状態に保つ」という行為を表現するには，誰が誰をどのように名づけたのか，あるいは，誰が何をどのような状態に保ったのかを明示する必要があります．つまり，「名付ける」や「～の状態に保つ」という動詞，「誰が」にあたる主語，「誰（何）を」にあたる目的語，そして「どのように」にあたる補語が必要です．補語は目的語を補足説明するための要素ですが，(6a) のように名詞のときもあれば，(6b) のように形容詞のときもあります．

第 5 文型で用いられる主な動詞：make, find, appoint, consider など

また，第 5 文型で使われる make などの動詞の目的語の後ろには，名詞や形容詞だけでなく，動詞の原形，現在分詞，過去分詞などの動詞相当語句も用いられることがあります．(7) の例文を見てみましょう．

(7) a. John made his son wash his car.
b. Mary had her car repaired.
c. I saw the dog crossing the street.
d. I heard my name called by a familiar voice.

(7a, b) の make や have は**使役動詞**と呼ばれ，「～に…させる」や「～を…してもらう」などの意味を表します．また，(7c, d) の see や hear は**知覚動詞**と呼ばれ，「～が…するのを見る」や「～が…されるのを聞く」などの意味を表します．これらの動詞の目的語とその後ろの動詞相当語句との間には，「主語・述語」の関係が成り立っていることに注意してください．そして，その関係が能動的なときは，動詞の原形や現在分詞（-ing 形）が使われ，受動的なときは，過去分詞（-en 形）が使われます（☞ 2 節および p. 77 参照）．目的語の後ろにこのような動詞相当語句が用いられることとその用いられ方もしっかり覚えましょう．to 不定詞も目的語の後ろに用いられますが，これについては Unit 10 で取り上げます．

練習 2 次の (1)～(2) の文の (　　) に入れるのに最も適切なものを，それぞれの A～D のうちから 1 つずつ選びなさい．

(1) His lecture on deforestation (　　) us conscious of the importance of recycling used paper.
A. showed　　B. gave
C. raised　　D. made

(2) My father often (　　) my sister and me our favorite bed-time story.
A. said　　B. had
C. read　　D. talked

練習 3 次の (1)～(2) の日本語の内容になるように，[　　] 内の語または句を並べ替えて英文を作りなさい．

(1) この車は私の車庫には大きすぎるということが分かりました．

I _____.

[this car, found, for my garage, too big]

(2) 会社はすべての従業員に平均以上のボーナスを支給しました．

The company _____.

[all its employees, offered, above-average bonuses]

2. 動詞の種類・意味と能動文・受動文

次の 2 つの文の意味を考えてみましょう.

(8) a. A British woman wrote this novel.
b. This novel was written by a British woman.

「書く」という行為には，行為を行う人物（書き手）と書かれるもの（手紙や小説など）の両方が関わります．誰かが何かを書くという出来事は同じであっても，書き手と書かれるもの，どちらに視点を置いて表現するのかによって，2 通りの表現方法があります．(8a) のように，「書く」という行為を行う側に視点を置いて，書き手が主語となってこの出来事を表す方法を**能動文**と呼びます．また，(8b) のように，「書く」という行為の対象に視点を置いて，書かれるもの（this novel「この小説」）が主語となってこの出来事を表現する方法を**受動文**と呼びます．受動文は，[be 動詞 + 過去分詞] で表現されます．

このように，受動文は動詞が表す行為の対象が主語となる構文ですから，行為の対象が存在しない第 1 文型と第 2 文型で用いられる動詞，つまり目的語を必要としない**自動詞**を受動文で用いることはできません．一方，動詞が表す行為を受ける対象が存在する第 3 文型，第 4 文型と第 5 文型で用いられる動詞，つまり目的語を必要とする**他動詞**は受動文で用いることができます．

(9) a. The bridge was built by our company.
b. Our company built the bridge. 【第 3 文型】
(10) a. Mary was sent a letter by John.
b. John sent Mary a letter. 【第 4 文型】
(11) a. Their daughter was named Jane.
b. They named their daughter Jane. 【第 5 文型】

練習 4 次の (1)〜(2) の日本語の内容になるように，[　　] 内の語または句を並べ替えて英文を作りなさい．

(1) あの高速道路の渋滞は，ひどい交通事故が原因でした．

That traffic jam _____.

[on the expressway, a serious car accident, caused, was, by]

(2) 私の叔父は，去年，人事部長に任命されました．

My uncle _____.

[appointed, of the personnel department, was, manager, last year]

英語のリズムと強形・弱形，強勢の衝突と移動

次の a～c の文で，助動詞 will は，通常，どのように読まれるでしょうか．

助動詞 will の発音 CD **5**

a. It will rain in the afternoon.
b. I will fly to Paris next week.
c. Will you go to the concert with me?

多くの方は，will は /wɪl/ と読まれると思っていますが，will がこのように読まれることは，実はあまり多くありません．

前置詞，助動詞，代名詞，関係詞，接続詞，be 動詞などの機能語は弱く短く発音されるということを Unit 1 で述べました．助動詞 will は機能語ですから，通常は弱く短く発音され，その発音は /wəl/ となります．一般の英和辞書には will の発音は /《弱》wəl,《強》wɪl/ などと表記されています．(《弱》は弱形を，《強》は強形を意味します．) 弱形である /wəl/ が先に書かれているということは，そのように読まれることが多いことを意味します．なお，/ə/ で表される音は曖昧(あいまい)母音 (schwa) と呼ばれ，英語で語が弱く短く発音されるときにしばしば現れる音で，口を軽く開き，唇や舌の力を抜いて発音されます．

ただし，Yes, I will. のように will が文末に生起した場合や，I *will* do the job. のように will が対比や強調などを表す場合には，/wɪl/ という強形の発音になります．

助動詞 can も，通常は弱く短く /kən/ と読まれ，/kæn/とは読まれません．日本人英語学習者にとって，弱形の聞き取りや /ə/ の聞き取りはとても難しいものです．一般に，単語を強く読むことについての指導はされるのですが，弱く読むことの重要性については触れられないことが多いようです．弱く読むところがあってこそ，英語の強勢拍リズムが成り立つわけですから，本来弱く読むべきところを強く読まないように，十分注意する必要があります．

練習 1 次の (1)～(3) の文の下線部の発音記号を辞書で調べ，リズムに気をつけて読みなさい．CD **6**

(1)	I <u>can</u> help you.	can	/	/
(2)	I <u>have</u> <u>been</u> sick for the past few days.	have	/	/
		been	/	/
(3)	<u>Do</u> you know <u>him</u>?	do	/	/
		him	/	/

練習 2 次の (1)〜(3) の機能語には，それぞれ，弱形と強形がある．弱形で読まれるものには W，強形で読まれるものには S の記号を (　　) 内に記入し，全文を読みなさい．CD 7

(1) for / 《弱》 fər, 《強》 fɔːr /
　a. What does she want it <u>for</u>?　(　　)
　b. These flowers are a present <u>for</u> you.　(　　)
(2) at / 《弱》 ət, 《強》 æt /
　a. I'll see you <u>at</u> the airport.　(　　)
　b. What are you looking <u>at</u>?　(　　)
(3) from / 《弱》 frəm, 《強》 frɑm /
　a. Where does he come <u>from</u>?　(　　)
　b. This plane is not to Tokyo; it is <u>from</u> Tokyo.　(　　)

練習 3 次の (1)〜(5) の文の (　　) に内に入る語を聞き取りなさい．CD 8

(1) I (　　) be leaving today.
(2) (　　) you happen (　　) know (　　) phone number?
(3) I know (　　) (　　) mother (　　) be angry to hear that.
(4) My brother (　　) leave (　　) the States tomorrow morning.
(5) I (　　) (　　) quite happy to help (　　).

次の a と b の文における，Japanese の発音の違いを考えてみましょう．

Japanese の発音 CD 9
a. Anna's father is French, and her mother is **Japanese**.
b. **Japanese** cars are very popular in this country.

Japanese は通常 /dʒæpəníːz/ と発音され，第 3 音節に強勢がありますが，上の b のような例では，Jápanèse と強勢が第 1 音節に移動します．このように強勢の位置が移動することを強勢移動 (stress shift) と呼びます．強勢移動が起こるのは，できるだけ強勢が等間隔に現れるようにして，強勢衝突 (stress clash) を避けるためです．Jàpanése cár と発音すると強勢衝突が起こるために，強勢移動が起こり，Jápanèse cár となるのです．

強勢移動は形容詞に起こることが多く，強勢移動を伴う可能性のある形容詞に対して，(■ 名 の前では Jápanèse)（ウィズダム英和辞典）や，《◆限定用法の場合は通例 /ˊ－－ˋ/: a Japanese boy》（ジーニアス英和辞典）などと説明している学習英和辞典もあります．

強勢移動は，対比する部分を強調する場合にも起こります．ある単語が，記憶している強勢パターンとは違って発音されることもありますから，注意が必要です．

練習 4 次の (1) と (2) の語の強勢が，それぞれの文ではどこに来るかをアクセント記号 (´) で記しなさい. CD**10**

(1) fourteen

a. Nick is just a kid. He is still fourteen.

b. There are fourteen departments in this university.

c. Fourteen people came to the party.

(2) increasing

a. Demand for oil is increasing in China.

b. The population of the city is increasing, not decreasing.